

KEIKYU BUSINESS REPORT

第94期 第2四半期 連結累計期間報告

2014年4月1日～2014年9月30日

京浜急行電鉄株式会社 証券コード 9006

目次

トップメッセージ	2
連結決算ハイライト	3
連結財務諸表(要旨)	4
京急グループが目指す将来像	6
株主プレミアムイベント	10
会社の概要	11



トップメッセージ



京浜急行電鉄株式会社
取締役社長

原田 一之

株主の皆様には、格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

第94期 第2四半期連結累計期間(2014年4月1日から2014年9月30日まで)の事業の概況をまとめ、「KEIKYU BUSINESS REPORT」としてお届けします。

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動が和らぎ、景気は、緩やかな回復基調で推移したものの、企業収益の改善や個人消費の持ち直しに足踏みがみられました。

このような事業環境のなか、当社グループは、重要な戦略拠点である品川、羽田空港を中心に各事業を推進するとともに、経営の効率化を図り、経営基盤の強化に努めました。また、ライフラインを担う企業集団として、引き続きすべての事業において安全の徹底を図り、安心、良質なサービスの提供に努めました。

以上の結果、前期に流通事業等で連結子会社の決算期変更を行った反動もあり、当第2四半期連結累計期間の営業収益は1,459億1千6百万円(前年同期比8.4%減)、営業利益は143億8千7百万円(前年同期比5.4%減)、経常利益は117億5千7百万円(前年同期比9.2%減)、四半期純利益は70億4千3百万円(前年同期比11.2%減)となりました。

なお、当期の中間配当金につきましては、前期に引き続き1株につき3円とすることに決定いたしましたので、ご報告申しあげます。

今後も企業価値を高め、株主の皆様のご期待にお応えしてまいります。株主の皆様には、より一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

2014年11月

連結損益計算書の概要

営業収益
1,459億円
(前年同期比 8.4%減)

営業利益
143億円
(前年同期比 5.4%減)

経常利益
117億円
(前年同期比 9.2%減)

四半期純利益
70億円
(前年同期比 11.2%減)

セグメント別の概要

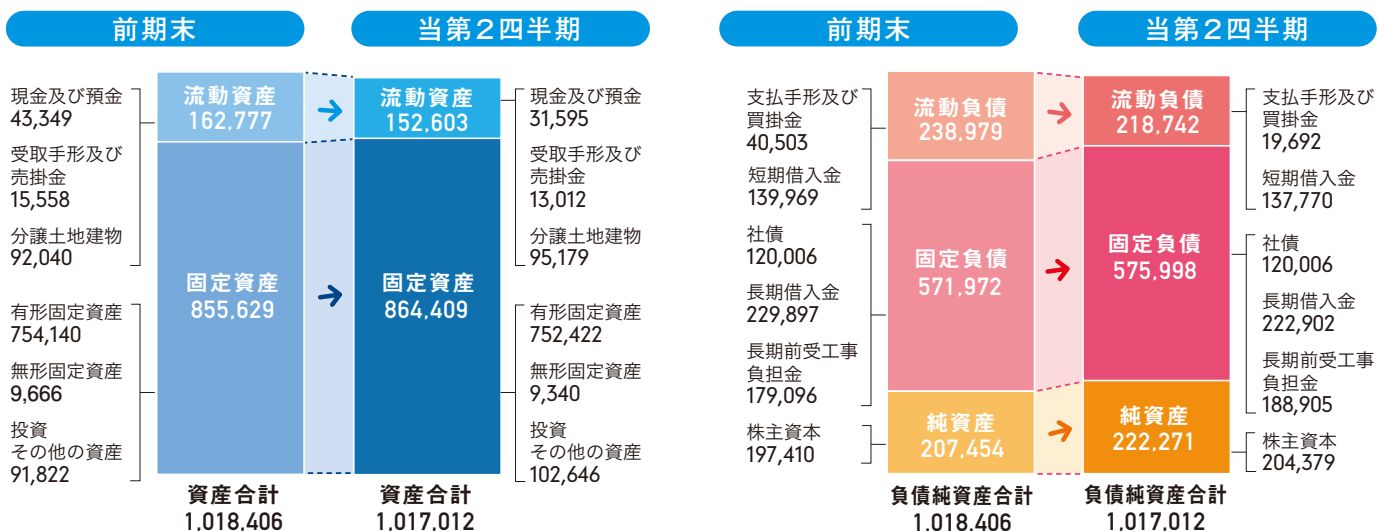
交通事業	<p>営業収益 593億円 (前年同期比 1.4%増)</p> <p>営業利益 101億円 (前年同期比 2.9%増)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●鉄道事業では、羽田空港国際線発着枠拡大に伴う航空旅客の増加や航空会社等と共同で積極的に旅客誘致を図ったことなどにより、羽田空港輸送が増加しました。また、引き続き安全対策を最重要課題とし、高架橋耐震補強工事等を進めました。 ●乗合・貸切自動車事業では、新規路線の運行開始、タイヤの見直しおよび増便などを行い、利便性の向上に努めました。
不動産事業	<p>営業収益 135億円 (前年同期比 3.9%減)</p> <p>営業利益 5億円 (前年同期比 70.7%減)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●不動産販売業では、引き続き港町駅前の分譲マンション「リヴァリエB棟」、「ザ・タワー横須賀中央」のほか、分譲地などを販売しました。 ●不動産賃貸業では、品川駅前の京急第1ビルをはじめとしたオフィスビルが順調に稼働しました。 ●前年同期に分譲マンションの売り上げを計上した反動や分譲地販売における売上原価の増加などにより、減収減益となりました。
レジャー・サービス事業	<p>営業収益 208億円 (前年同期比 1.1%増)</p> <p>営業利益 23億円 (前年同期比 18.4%増)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ホテル業では、ホテル グランパシフィック LE DAIBAおよび京急EXインは、国内のビジネス・レジャー需要や増加する訪日旅客を取り込み、好調に稼働しました。 ●レジャー施設業では、京急開発(株)は、「ボートレース平和島」の外売所等が順調に推移しました。
流通事業	<p>営業収益 495億円 (前年同期比 24.9%減)</p> <p>営業利益 7億円 (前年同期比 23.6%減)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●百貨店業では、(株)京急百貨店は、食品売場をリニューアルし、産地にこだわった商品構成にするなど、顧客の獲得に努めました。 ●ストア業では、(株)京急ストアは、「京急ストア 安針塚店」を開業したほか、公共料金等の収納代行サービスを導入するなど、利便性の向上を図りました。 ●前期に連結子会社の決算期変更を行った反動などにより、減収減益となりました。
その他	<p>営業収益 206億円 (前年同期比 10.7%増)</p> <p>営業利益 5億円 (前年同期比 32.7%増)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●京急建設(株)は、鉄道の安全対策工事等を行ったほか、「平和島物流センター」の建設工事等を進めました。 ●(株)京急ファインテックは、鉄道車両修繕工事の受注を増加させるなど、収益の向上を図りました。

連結財務諸表(要旨)

第94期 第2四半期連結累計期間
(2014年4月1日～2014年9月30日)

連結貸借対照表

(単位：百万円)



■資産の部

投資有価証券の増加はありましたが、現金及び預金や繰延税金資産の減少などにより、1兆170億円(前期末比13億円減)となりました。

■負債の部

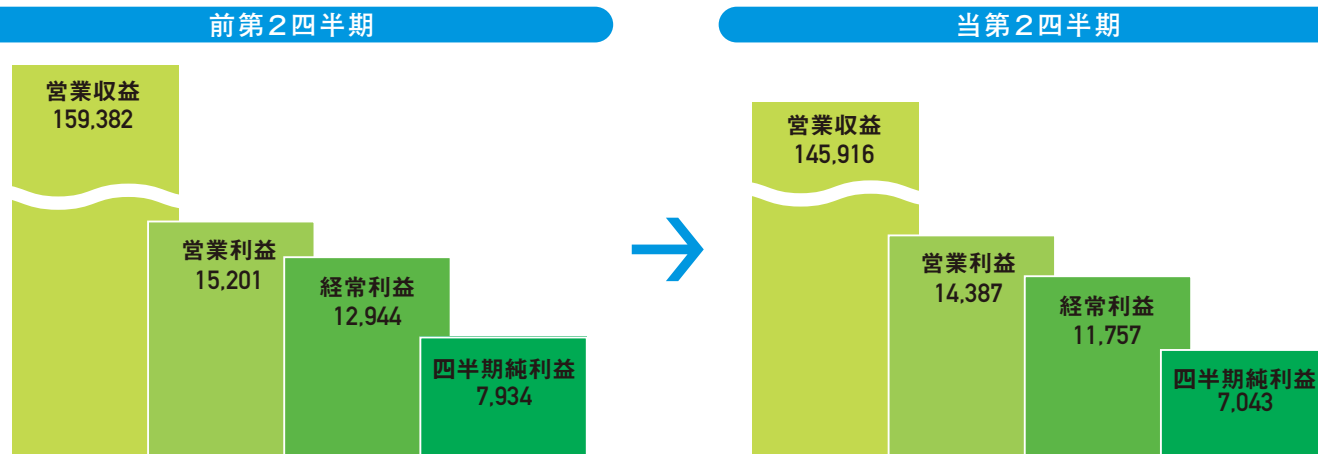
長期前受工事負担金の増加はありましたが、支払手形及び買掛金や有利子負債の減少などにより、7,947億円(前期末比162億円減)となりました。

■純資産の部

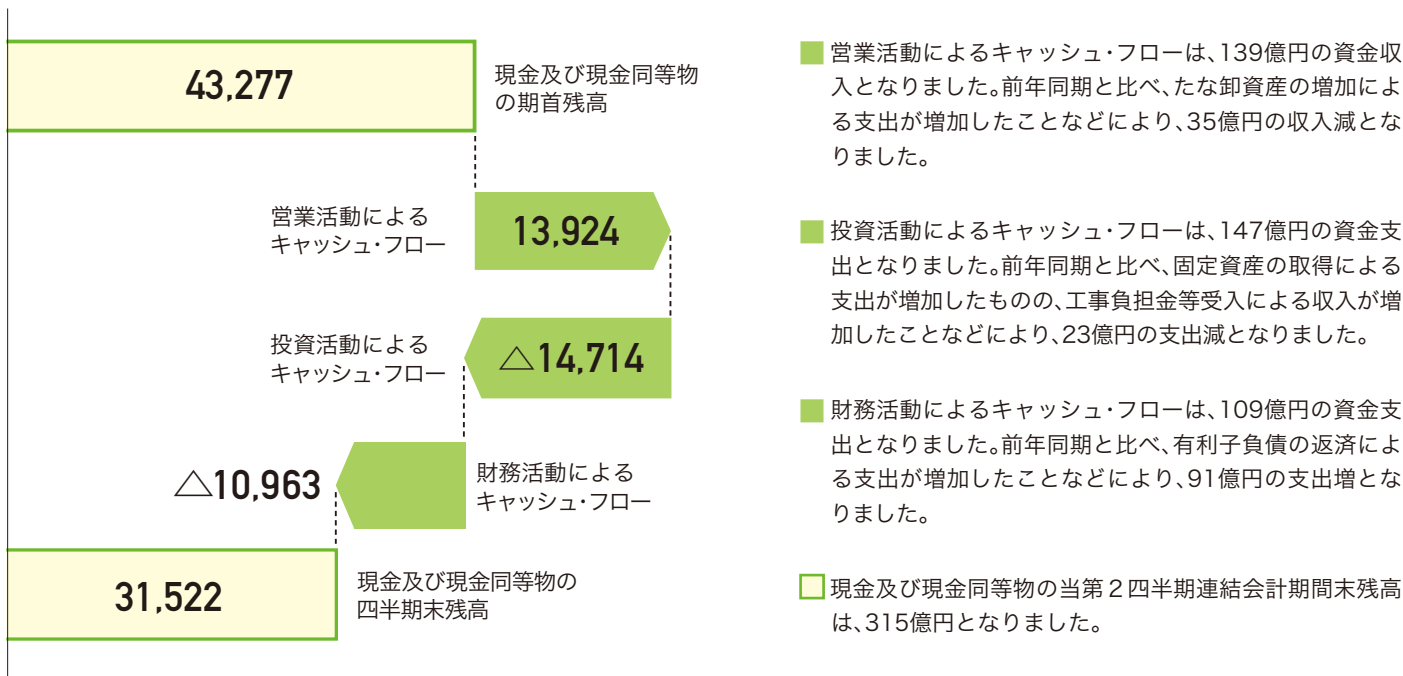
剰余金の配当による減少はありましたが、四半期純利益の計上やその他有価証券評価差額金の増加などにより、2,222億円(前期末比148億円増)となりました。

連結損益計算書

(単位：百万円)



当第2四半期



当社IRサイトのご案内

当社ホームページ「KEIKYU WEB」では、投資家の皆様に役立つ情報を「IR情報」として紹介しています。財務諸表の詳細は、「KEIKYU WEB」の「IR情報」にアクセスしていただき、「最新IR資料」一覧の「決算短信」等をご覧ください。

① 「IR情報」をクリック



② 「最新IR資料」の一覧はこちら



③ 決算短信等をご覧ください



「品川・羽田を玄関口として、国内外の多くの人々が集う、豊かな沿線へ」の実現に向けて

特集

将来像に向けた
具体的取り組み



1

品川駅周辺の 開発事業の推進

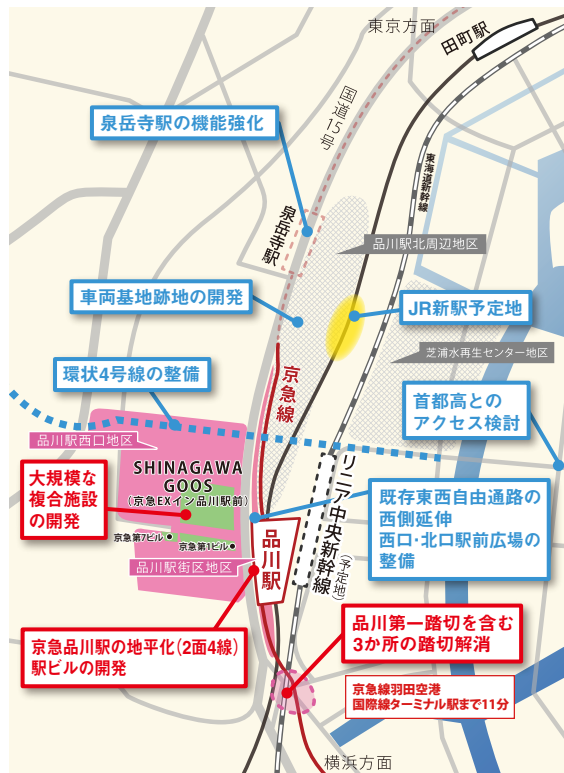
品川駅は、羽田空港と京急線で11分で結ばれ、京急とJRをあわせて1日約100万人もの乗降客を誇る、交通の要衝です。

東京都は、羽田空港の国際化など広域交通の整備の進展を受け、本年9月に「品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2014」を発表しました。品川駅周辺地域は、羽田空港国際化の進展、リニア中央新幹線の始発駅決定を踏まえ、民間活力を引き出し、段階的に開発整備を推進すると記載されています。

»「これからの日本の成長を牽引する国際交流拠点・品川」

東京都が品川地区のまちづくりの方針を明らかにした「品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2014」のなかで、当社の品川駅がある駅街区地区と当社が多くの資産を保有する西口地区を含む4地区が、優先整備地区に位置づけられました。

京急グループは、ガイドラインを踏まえ、駅周辺に保有する資産を最大限に活用し、沿線に広く相乗効果を波及させるよう、グループ一丸となって事業を展開していきます。



「品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2014」から当社作成赤字が京急グループの取り組み

京急グループは、品川を最重要戦略拠点と位置づけており、これまでも積極的に投資を行い、事業展開を図ってきました。

現在、京急グループは品川駅前を囲む土地を確保しているほか、品川地区に約6万㎡の敷地を保有しており、品川駅のほか、好立地を活かした賃貸オフィス、ホテル、ショッピングセンター等を運営しています。

羽田空港まで京急線で11分で結ばれる品川駅周辺では、国内外の交通結節点としての駅機能の向上を図ります。京急グループでは、現在の複雑で分かりにくい駅配置の見直しや踏切解消などを検討していきます。また、駅周辺に保有する京急グループの資産を有効活用してまちの活性化を図ります。



品川駅周辺に所有する京急グループ資産

▶▶京急グループが取り組む施策

駅街区地区における取り組み

▶京急品川駅の地平化(2面4線)

品川駅は、利用客の利便性向上を図るため、現在高架にある2面3線のホームをJR東日本のホームと同じレベルに配置し、あわせて2面4線化による空港アクセス向上を検討しています。品川駅を地平化することで、品川駅東口から東西自由通路を延伸させて国道15号を越えて西口地区と繋ぐ、歩行者ネットワークを構築することが可能となり、乗り換えの利便性や安全性が向上した魅力的な駅への再編を検討しています。

▶駅ビルの開発

品川駅では、今後ますます羽田空港やリニア中央新幹線の利用客が増えることを考慮し、駅再編にあわせ、駅直結の利便性を活かした品川駅の顔となるような駅ビルの開発を検討しています。

西口地区における取り組み

▶大規模な複合施設の開発

品川駅西口地区は、駅との関連性を図りながら、品川のシンボルとなるような駅前広場の設置や、潤いのある景観・環境形成、国際会議やMICE機能の充実等を目指した一体的な開発の構想が、ガイドラインにも記載されました。

京急グループが運営するSHINAGAWA GOOSについては、オフィス、商業、ホテル、住宅等が配置された、大規模な複合施設としての開発を検討しています。

踏切解消への取り組み

▶品川第一踏切を含む3か所の踏切解消

京急品川駅の南方にある品川第一踏切を含む3か所の踏切は、現在京急本線で都内に残る最後の踏切です。鉄道輸送の安全性の向上を図るだけでなく、品川駅南側の道路交通を円滑にして地域の東西連絡性を強化・改善させるべく、この踏切の解消を検討しています。



2

羽田空港・ 品川地区が持つ 高いポテンシャル の活用

京急グループは、国内線・国際線の発着回数の増加により、日本の玄関口として重要性がますます高まっている「羽田空港」と、交通の要衝として新たなまちづくりが期待されている「品川地区」を重要な戦略拠点と位置づけています。

この2つの拠点が持つ高いポテンシャルをすべての事業で活かし、当社線沿線に広く相乗効果を波及させることで、定住人口のみならず就業人口、交流人口の増加を図ります。

»2014年11月 ダイヤ改正 品川駅⇔羽田空港国際線ターミナル駅間が11分に

11月に、羽田空港アクセスを中心としたダイヤ改正を実施しました。

この改正により、「エアポート快特」の品川駅から羽田空港国際線ターミナル駅までの所要時間が1分短縮されました。また、平日の朝ラッシュ時間帯に、品川・都心方面、横浜方面とも羽田空港直通列車の増発を行い、混雑の緩和と利便性向上を図りました。



»羽田空港国際線発着枠の拡大により 羽田空港国際線ターミナル駅のご利用者数が好調に推移

本年3月に、羽田空港国際線の発着枠が年間6万回から3万回増えて年間9万回になりました。この追い風を受け、本年4月から9月末までの羽田空港国際線ターミナル駅の乗降人員の状況は、前年同期比で35%増加と、大変好調に推移しています。

また、羽田空港国際線ターミナル駅にある京急ツーリストインフォメーションセンターを利用する訪日旅客は、前年同期比で38%増加しており、なかでも欧米からの旅客が増えています。本年3月に、訪日旅客の利便性向上を図るために導入した無料の公衆無線LANサービスも好評です。さらに、本年8月には、深夜早朝の航空便で到着した方も申し込み手続をご自身で行うことができるよう、自動ID発行機を設置しました。引き続き、「質の良いサービス」を提供することで、訪日旅客の取り込みに努めます。

さらに、今後も発着枠の拡大が検討されている羽田空港において、京急グループでは、将来のさらなる需要増に対する輸送力の確保お



よび輸送サービスの向上を目指し、積極的に羽田空港アクセスの強化を進めていきます。



3

豊かで 住みやすい 沿線づくり

京急グループは、グループが連携して総合力を発揮することで、少子高齢化やライフスタイルの変化に適応した魅力ある住まいや、流通サービスを提供しています。

沿線の就業人口、定住人口を増加させるため、グループの総力を挙げて豊かで住みやすい沿線づくりを推進します。

» 京急蒲田駅 鉄道高架下の活用 「駅を、街とつながる開かれた場所へ」

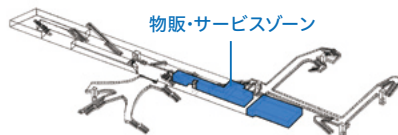
京急蒲田駅付近連続立体交差事業で新たに創出された鉄道高架下を活用し、「駅を、街とつながる開かれた場所へ」をコンセプトにした京急蒲田駅直結の商業施設を2015年度に開業する予定です。

京急蒲田駅は、京急本線から空港線へ

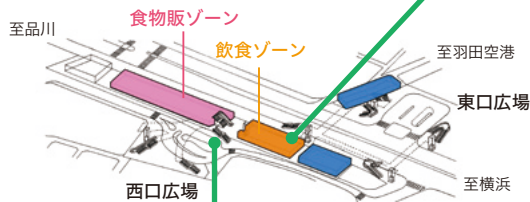
の分岐点であるとともに、品川、横浜方面にも至近と、抜群のアクセスを誇ります。地域の生活拠点となる商業施設を開業することで、駅としての利便性向上はもちろん、京急蒲田駅周辺の活性化を目指します。

〈開発イメージ〉

京急蒲田駅 中2階



京急蒲田駅 1階



1階飲食ゾーン



1階通路(西口広場側)

※実際の計画と異なる場合があります。

» 沿線企業と京急プレミアポイントサービスの連携を強化 「京急プレミアポイント新クリスタルカード」が誕生

京急プレミアポイントサービスは、カード会員様のサービス拡大を図るため、沿線企業との連携を強化していきます。

本年9月に「さいか屋」が新たに加盟店に加わり、さいか屋でのお買い物でも京急プレミアポイントが貯まるようになりました。また、「横浜ポルタ」では、ポイントカードの統合を進め、新しくデザインしたポイント専用カードを発行しました。

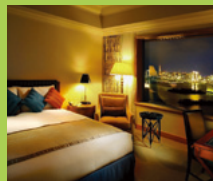
今後も沿線企業との連携を図り、お客様にわかりやすく使いやすいサービスを提供するほか、新規顧客の獲得を図っていきます。



株主プレミアムイベント

ホテル グランパシフィック LE DAIBA おもてなしの現場見学ツアー

- ◆開催日時
2015年2月25日(水)
15時～17時30分
- ◆募集人員
15組30名様
- ◆応募締切
2015年2月2日(月)消印有効
- ◆当選者へのご案内
2015年2月10日(火)発送予定



京急ファインテック 鉄道の安全運行を支える 車両工場見学ツアー

- ◆開催日時
2015年3月2日(月)
14時～16時
- ◆募集人員
15組30名様
- ◆応募締切
2015年2月9日(月)消印有効
- ◆当選者へのご案内
2015年2月13日(金)発送予定



イベント参加申し込み方法



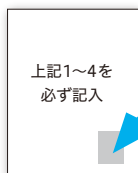
応募資格 2014年9月30日現在 株主の方 応募方法 はがき・WEB

はがきで応募される方

本誌裏表紙の応募券を貼り、
以下の事項をすべてご記入のうえご応募ください。

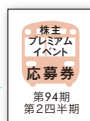
- 1.参加希望コース名
- 2.株主様の氏名、年齢、郵便番号、住所、電話番号、株主番号
- 3.同伴者の氏名、年齢、株主様とのご関係
- 4.(同伴者が同居以外の場合のみ)
同伴者の郵便番号、住所、電話番号

はがき



上記1～4を
必ず記入

応募券



本誌裏表紙に
あります

送付先

〒108-8625
京急電鉄
株主プレミアム
イベント事務局

WEBで応募される方

- 1.「京急電鉄IR」でWEB検索します。[京急電鉄IR 検索](#)
- 2.京急電鉄ホームページの「IR情報」にアクセスします。
- 3.応募ページに進んでいただき、ログインパスワード
「9006」を入力してご応募ください。

ご注意

- ・お申し込みは、お一人様につき一回限りです。
- ・同伴者は株主の方でなくても結構です。
- ・いずれのコースも現地集合・現地解散となります。
- ・参加費は無料ですが、現地までの往復交通費はご負担いただきます。
- ・諸般の事情から内容を変更または中止させていただく場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ・応募多数の場合は抽選となりますので、あらかじめご了承ください。
なお、当選者の発表は当選はがきの発送をもって代えさせていただきます。
- ・ご応募に際していただいた情報は、本イベントに関して必要な範囲でのみ利用いたします。

会社情報

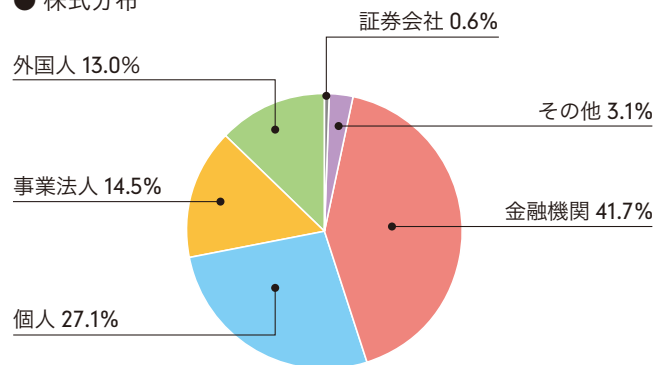
● 商号	京浜急行電鉄株式会社 (証券コード 9006) Keikyu Corporation
● 本社所在地	〒108-8625 東京都港区高輪2丁目20番20号
● 設立	1898年2月25日 (前身の大師電気鉄道の設立) 1948年6月1日 (京浜急行電鉄の設立)
● グループ会社	65社 (当社を含む)
● 従業員数	9,100名 (うち当社1,515名)

役員 (2014年6月27日現在)

取締役会長 (代表取締役)	石渡 恒夫
取締役社長 (代表取締役)	原田 一之
専務取締役	田中 伸介
専務取締役	小倉 俊幸
常務取締役	國生 伸昌
取締役相談役	小谷 昌
取締役	河村 幹夫
取締役	武田 嘉和
取締役	今井 守
取締役	廣川 雄一郎
取締役	道平 隆
取締役	柴崎 昭嘉
取締役	本多 利明
取締役	平位 武了
取締役	上野 賢介
取締役	大賀 祥介
常勤監査役	小山 勝男
常勤監査役	猿田 明里
監査役	濱田 邦夫
監査役	友永 道子

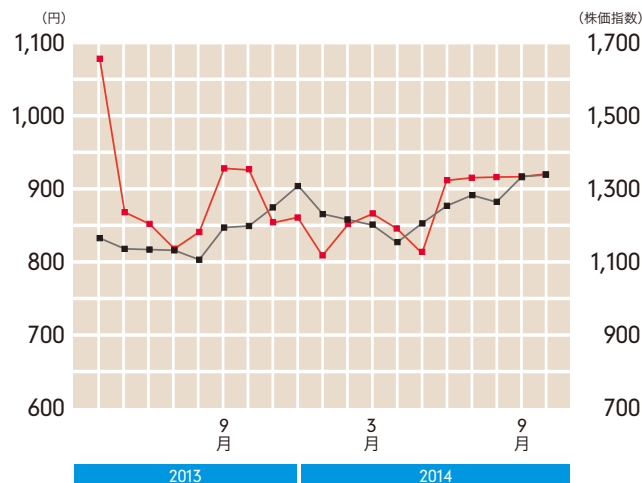
株式の情報

- 資本金 43,738,735,119円
- 株式数 551,521,094株 ※自己株式を含む
- 株主数 25,301名
- 株式分布



● 株価 (月終値) の推移

■ 当社株価：左メモリ ■ TOPIX (東証株価指数)：右メモリ



株主優待のご案内(年2回)

グループ施設株主優待券のほか、株式数に応じて優待乗車証等が選択できる株主優待制度を設けています。

1,000株以上ご所有のすべての株主様

■ 京急グループ施設株主優待割引券

〈主な割引施設〉

京急グループのホテル、京急百貨店、京急ストア、葉山マリーナ、京急油壺マリンパークほか

3,000株以上30,000株未満ご所有の株主様

■ 5,000株以上ご所有の場合

電車・バス全線きっぷもしくは京急EXイン宿泊券の **いずれか1つ選択**

ご所有株式数	電車・バス全線きっぷ	京急EXイン無料宿泊券(シングル)
3,000～5,000株未満	6枚	—
5,000～10,000株未満	15枚	1枚
10,000～20,000株未満	30枚	2枚
20,000～30,000株未満	60枚	4枚

30,000株以上ご所有の株主様

いずれか1つ選択 + 電車・バス全線きっぷ15枚

さらに3年以上継続の場合

+ 電車・バス全線きっぷ15枚

ご所有株式数	電車全線バス	バス全線バス	電車・バス全線きっぷ	京急EXイン無料宿泊券(シングル)	ホテル グランパシフィック LE DAIBA 無料宿泊券(ツイン)
30,000～45,000株未満	1枚	—	90枚	6枚	2枚
45,000～60,000株未満	1枚	1枚	135枚	6枚	2枚
60,000株以上	電車・バス共通全線バス 1枚		180枚	6枚	2枚

※電車・バス全線きっぷは、当社電車全線および京急グループ(京浜急行バスグループ、川崎鶴見臨港バス)の一般路線バス全線にご乗車いただけます。
※株主優待の詳細は、当社ホームページをご覧ください。

上場株式等の配当等に係る10%(所得税7% 住民税3%)「軽減税率の廃止」に関するご案内

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率(所得税7%、住民税3%)は廃止され、本来の税率である20%(所得税15%、住民税5%)となりました。

また、2013年1月1日から2037年12月31日までの間(25年間)は、「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が施行されており、その所得税額に対して2.1%が「復興特別所得税」として課税されています。

そのため、株式等の配当等もその源泉所得税を徴収する際に「復興特別所得税」が併せて徴収されています。

■ 上場株式等の配当等に係る源泉徴収税率について

配当等の支払開始日	2014年1月1日～2037年12月31日	2038年1月1日～
上場株式等の配当等の税率	20.315% [内訳] 所得税(15%) + ※復興特別所得税(0.315%) 住民税(5%)	20% [内訳] 所得税(15%) 住民税(5%)

※15%×復興特別所得税率2.1%=0.315%(2014年1月時点)

■ 単元未満株式の買取・買増制度、特別口座に関するお問い合わせは

株主名簿管理人・特別口座管理機関
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号

〈営業時間〉平日 9:00～17:00

☎ 0120-782-031

■ 当社株主優待等に関するお問い合わせは



京急ご案内センター

〈営業時間〉平日 7:30～21:00
土・日・祝日 9:00～17:00

※営業時間は変更となる場合がございます。

ハローハロー
03-5789-8686

または 045-441-0999



再生紙を使用しています

KEIKYU

京急電鉄

株主
プレミアム
イベント
応募券
第94期
第2四半期

※この冊子に掲載のイラスト・写真の無断転載を禁じます。